



熊本の病院紹介

『くまもと森都総合病院』の近況

医療法人創起会 くまもと森都総合病院

理事長・院長 **藤山 重俊**

当院は大正十一年（一九二二年）

に通信省の診療所「熊本通信診療所」として開設され、「熊本通信病院」「NTT九州病院」、さらには「NTT西日本九州病院」となっており、平成二十三年七月一日に長年の懸案であった老朽化した病院棟の建替えとセットで「医療法人創起会 NTT西日本九州病院」として独立、創立九十周年を迎えた平成二十四年七月一日から『医療法人創起会 くまもと森都総合病院 KUMAMOTO SHINTO GENERAL HOSPITAL』と改称して、新たな一歩を踏み出しています。

創立九十五周年を迎えた平成二十九年四月一日に大江三丁目のJT熊本工場跡地の新病院へ移転・オープンしました。昨年四月の熊本地震では築四十数年から六十年の旧病院は大きな被害を受けましたが、新病院は一万五、五三七㎡（四、七〇〇坪）で、最新の免震構造で建設され、仮に大震災が起きても病院機能を維持できる強度であり、地域の防災拠

点としての役割を果たします。ユニバーサル外来となつて患者さんの動線が短くなるとともに、明るく開放的な病棟となつて、療養生活を快適に過ごしていただける環境が整いました。今回の診療機能の更なる整備・充実によってより高度の医療を提供することが可能となつて、基幹型臨床研修病院、熊本県指定がん診療連携拠点病院、二次救急指定病院としても一層の飛躍が出来るものと思つています。また、地域の医療機関と密に連携して、在宅や施設での急変や高齢者の救急対応のバックアップ病床など、地域の在宅医療を支える都心部における総合病院機能を有する「在宅療養支援病院」としての役割を果たします。さらには、地域包括ケア病棟や緩和ケア病棟、乳腺センターや婦人科を中心とした女性に優しい病棟など、急性期から在宅医療まで切れ目のない医療の提供をスローガンとして、『地域のニーズに応え、明るく親しみやすい、地域とともに成長する病院』を目指しています。

病床数一九九床（一般病床七〇一看護体制一五四床、地域包括ケア病床三〇床、緩和ケア病床一五床・病床稼働率九六・五%、平均在院日数一一・二日）、一日の平均外来患者数四六〇名、紹介率四四%、職員数三七六名・医師四〇名、歯科医師一名、研修医六名であり、総合診療科、肝臓・消化器内科、血液内科、呼吸器内科、循環器内科、代謝・内分泌内科、腎臓内科（透析室含む）、リウマチ膠原病内科、外科、乳腺外科（乳腺センター）、整形外科、リハビリテーション科、産婦人科、皮膚科、眼科、歯科口腔外科、麻酔科、放射線科、病理診断科および臨床検査科で構成され、日本内科学会、日本外科学会など多くの学会の研修施設に認定されています。さらに、コメディカルを含めたチーム医療に積極的に取り組み、リサーチマインドを持つて日々の診療に当たっています。



多くの希望者を待っています。なお、八月一日に「大腸肛門病センター高野病院」が隣接地に移転・オープンされましたので、両病院が協力することによって相互が持つ医療の力をより強力にして、相乗効果を得るよう努力します。

このように新病院オープンを機に当院は大きく変化して初期研修医や専修医など若いDrの期待に沿えるようになりましたので、